

# 平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立野崎西小学校
校長氏名	小中 弘彦
作成日	平成28年3月3日

## 1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応してたくましく生きる心豊かな児童の育成に努める。

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域へ積極的に情報発信を行う。</li> <li>・地域の教育資源や人材を生かした学校教育活動を行う。</li> <li>・文部科学省の委託事業「地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業」のモデル校を受けて、体育科の中で地域のすぐれた人材を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育活動全体を通して、道徳教育の充実を図り、生命や人権を大切に教育に取り組む。</li> <li>・特別支援教育を大切に、一人一人を大切にする教育を進める。</li> <li>・様々な体験的な活動を多く取り入れ、心豊かな子どもを育てる。</li> <li>・組織を大切に全職員で全児童を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の習得を図り、基礎学力の向上に努める。</li> <li>・一人一人を大切に、子どもが主体的に取り組む授業を目指す。</li> <li>・保護者と連携を取り、正しい学習習慣を身に付けさせる。</li> </ul>

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や外部の教育力を生かすためにゲストティーチャーを学年に応じて要請し、さまざまな授業を実施した。</li> <li>・文部科学省の委託事業「地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業」のモデル校となり、和歌山県の著名な指導者やトップアスリートを招聘して直接子ども達が指導を受けた。</li> <li>・公民館と連携して、作品展を開催した。</li> <li>・公園の清掃を地域自治会と連携して行った。</li> <li>・学校開放月間での取組を広く広報し、一人でも多くの保護者や地域の方々から学校での活動を見てもらい、学校への意見を頂くことができた。</li> <li>・12月に実施した避難訓練は保護者、地域、関係機関と連携して実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた道徳教育の資料の活用を行い、体験活動と道徳の時間を計画的、発展的に行った。</li> <li>・社会、理科、総合的な学習、生活科で学年に応じた体験活動を取り入れ、体験活動を通じて、協力することや思いやりの心を育てた。</li> <li>・児童会活動を中心に地域公園の清掃やボランティア活動に取り組んだ。</li> <li>・芝生の改修を職員で行い、休憩時間を中心に運動場での遊び体験を増やすことで、子どもの体力と豊かな心を育てた。また放課後の学校開放も定着し、運動場で遊ぶ機会が増えた。</li> <li>・教職員全員が子どもにゆたかな心を育てるために組織的に取組み、全職員で全児童を育てる学校運営を定着させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着を図るために毎日の「昼学」を計画的に運用し、有効に活用した。また月曜日と金曜日にフォローアップタイムを設定し、補充学習に取り組んだ。</li> <li>・現職教育で算数と国語の研究授業に取り組むことで職員一人一人の授業力の向上に向けて取り組んだ。</li> <li>・フォローアップⅡの指定を受け、県と市の教育委員会の協力を得ながら学校全体で、和歌山の授業基礎・基本3か条の定着を図る。</li> <li>・保護者との連携を取りながら、基本的な生活習慣や家庭学習の定着を図る。</li> </ul>
----------	--	---	--

取組の成果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員さんや学校関係者評価委員さんに学校を訪問して頂き、率直なご意見をいただいた。そのことを謙虚に受け止めて、学校改革に生かす。</li> <li>・ゲストティーチャーの要請は年度により違いがあるので学年に応じて計画的に実施する必要がある。</li> <li>・避難訓練、緑道の清掃活動、公民館と連携した作品展示会などの地域と連携した行事は毎年続けることでより充実した活動にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートを毎学期実施することでいじめの芽を摘み取り、早期発見早期指導をすることができた。また生活指導部会で問題を話し合うことができ、きめの細かい指導に結び付いたので来年度も多くの機会を持つことでいじめの防止に努めたい。</li> <li>・毎学期「いじめ防止」に取り組んでいることを学校便り特別号で保護者に知らせることで保護者との連携を図ることができた。</li> <li>・体験活動を通してゆたかな心を育てることはできていたが、体験活動の事前事後の指導がより児童の心を動かすことになるので、学年別の年間計画を立て、計画的な取組をしなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度の全国学力テストの結果を見るとほぼ全国平均を下回っていたが平成27年度結果を見ると国語Aと算数Bで少し全国平均を上回ることができた。国語Bは全国平均より7.8ポイント低く課題が残った。</li> <li>・フォローアップⅡを受けることで、県・市の教育委員会の3回の訪問を受け、算数・国語の研究授業や学力向上に向けての研修を受けることで一人一人の授業力は向上したが若い教員が多い本校ではさらに一人一人の授業力の向上が必要である。</li> <li>・「健康生活チェック」を実施し、子ども達の早寝・早起き・朝ごはんやメディアに使う時間を減らすように児童への指導と保護者への協力を呼びかけた。</li> </ul>
-------------	---	--	--

改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山大学への避難訓練を来年度はさらに連携を強化して実施する。</li> <li>・学校開放月間を中心にできるだけ多くの保護者や地域の方に学校に来ていただけるような計画を学校や学年で計画し、広報する。</li> <li>・ホームページの更新や学校便りに力を入れて、多くの方に学校での子どもたちの様子を知っていただけるよう情報発信を行う。</li> <li>・地域の人材を生かし、学校へ招聘することで地域との連携をさらに深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ対策として、「いじめ防止のマニュアル」に基づいて、すべての教職員が同じ対応ができるようにする。</li> <li>・学年や季節に応じた体験的な活動の計画表を作成することで6年間を見通した体験的な活動を実施する。</li> <li>・規範意識を高めるために全教育活動を通して道徳教育や人権教育を充実させる。</li> <li>・情報モラル教育を関係機関の協力を得ながら学年に応じて計画的に実施する。</li> <li>・「いじめアンケート」等教員がよりアンテナを高くして情報を収集すると共に保護者との連絡を密にし、保護者との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力・体力向上委員会を中心に、児童の学力や体力の向上について話し合い。具体的な手立てを決め、学校が一丸となって共通理解のもとに取り組む。</li> <li>・国語主任、算数主任が中心となり昼の学習の資料を作成し、計画的に昼の学習を進めていく。</li> <li>・授業力向上に向けて教職員全員が授業を通じた研修を行う。</li> <li>・教員個々の授業力の向上を目指して「和歌山の授業づくり基礎・基本3か条を一人一人が徹底し、授業力と学力の向上を図る。</li> <li>・フォローアップタイムの活用や長期休業中の補習を工夫すると共に今まで以上に実施することで学力の向上を図る。</li> <li>・「家庭学習のてびき」と「早寝早起き朝ごはん」のリーフレットを作成したので、家庭への協力を保護者に積極的に伝えていく。</li> <li>・チャレンジ問題やeライブラリーの活用で全職員が取り組む。</li> </ul>
---------	--	---	---

## 3 その他の課題

・校舎の老朽化が進み、保護者からは改善を求める声が多く寄せられているので、市の協力を得てできることから優先順位をつけて取組みたい。学校でできることは校務員さんを中心に全職員で芝生の改修作業や環境整備に取り組みたい。

・体育科の研究校として28年度は教科等別研修会で2つの研究授業を提案して、外部からの指導を仰ぐことで研究を深める。